

～初級から楽しく描こう～

第12期 楽しい水彩・パステル

【6月の活動報告】

6月10日(月) 水彩画／水彩画の歴史

①水彩画について

- ・水彩画の絵具は半透明、別の色を重ねて塗った場合下の色が透けて見える。
- ・明るい色から初めて次第に暗い色を塗る。

②水彩画の歴史

- ・ルネッサンス以降デューラー(16世紀ドイツの画家)やレンブラントなどの画家が水彩画の作品を残している。
- ・1804年春にイギリスで水彩画協会が設立され、水彩画を描く人が多くなった(ターナーが有名)。
- ・土方先生から西洋画家20作品を紹介いただいた。



アルフレッド・デューラーの作品

6月17日(月) 水彩技法(1)水彩の基本技法

・ウォッシュ(塗り)

薄い絵具で画用紙の大きな一面をむらなく塗る。

- ・ウェットオンウェット技法(滲み)、ウェットインウェット技法(ぼかし)、ウェットインドライ技法、ドライブラッシュ技法(乾いた筆で直接絵具を塗る。)を効果的に使う。
- ・特殊技法のデモンストレーション
マスキング(色止め)、ひっかき技法(スグラフィート)、散布技法(スプラッターリング)、ゴム印などの特殊技法の土方先生によるデモンストレーションが行われた。

6月24日(月) 水彩技法(2)色々な描き方、鉛筆淡彩で描く

・構図

作品の様々な要素を調和のとれた一つのものにまとめること。

風景画では、視点を選び対象の大きさ、対象との距離、水平線の位置を決め、構図のバランスを損なうと感ずる部分は切り捨てる。

静物画では対象を意のままに動かせる。

・鉛筆淡彩の描き方

鉛筆で写生した絵に薄く絵具を色少なめにさらっと塗る。明るい色から中間色へと彩色していき、絵具を透かして鉛筆の線が見えるように、なるべく一回塗りで仕上げる。白い部分や明るい色彩のところは前もって塗らずに残す。



実技指導

以上